

**Design of a meeting place of people with books**

1135099 Yoshiki Fukata

**INTENT**

In recent years, information usage is changing with innovation of information technology. Recording mediums of information are diversification, and also the paper in the middle of mainstreams the times. Books are questioned the *raison d'être* by appearance electric book.

The electric book potentials can expect, but I am worried that almost people received it easy. Although merit of convert to electronics is big, book is not mere information is my contention. The books worth cannot be expressed in numbers, the assumption that, 'How to give new performance for books and design of a meeting place of people with books' is theme of master project. Therefore explore the possibility of books by design of a meeting place of people with books is the main object of my study.

**Composition of dissertation**

1. Background, intention and way of project.
2. Research historical study of books, new method of library and bookstore, and introduce activities related to the book on site.
3. '4<sup>th</sup> Haseko corporation competition'. The keyword is 'book-surfing'.
4. 'Kobe art biennale competition'. The keyword is 'social reading'.
5. Let me comment on the outlook for the future of the books.

# 本と人が出会う場の設計

社会システム工学コース 1135099

深田 佳樹

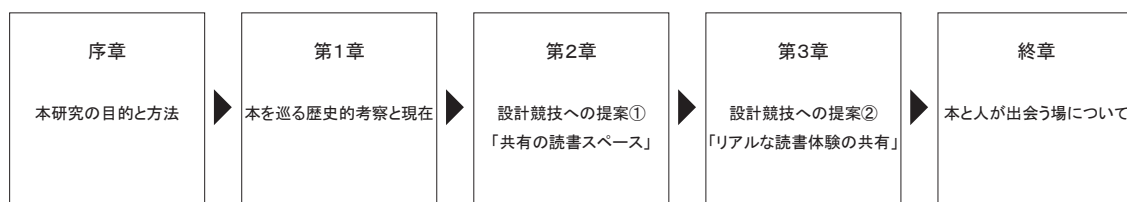
## 1. はじめに

近年、情報革新とともに、情報の扱い方が変化している。情報の記録媒体も多様化し、これまで、主流を占めていた紙もまた、時代の激流の直中にある。そうした中で、電子書籍の登場によって、その存在意義が問われているものの一つが「本」である。

電子書籍の秘めた可能性には大いに期待できるが、安易に受け入れし過ぎている今日の現状に一抹の不安を覚えずにはいられない。電子化のメリットは大きいですが、本は単なる情報ではないというのが、著者の主張である。本には数字では表すことのできない別次元の価値があるということを前提に、いかにして本に新たなパフォーマンスを与え、本と人が出会う場をつくるかが修士論文の主題である。そして、**本と人が出会う場の設計を行うことによって、本の新たな可能性を探ることが本論の大目的である。**

## 2. 本研究の構成

まず、序章において本研究の背景と目的、その方法について述べる。次に、第1章として、本を巡る歴史的考察、図書館と書店の変遷と現在の取り組み、そして、本に関わる現場の取り組みを紹介する。第2章、第3章では、著者が行った本をテーマにした設計競技について述べる。具体的には、第2章では、株式会社長谷工コーポレーション主催の設計競技「第4回 長谷工 住まいのデザインコンペティション」への応募案について。ここでは、共有の読書スペースを持った集合住宅を提案した。第3章では、神戸市が主催して行われるアートの祭典、神戸ビエンナーレに出展するアート作品を応募した。ここでは、リアルな読書体験の共有をコンセプトに提案を行った。そして、終章に、提案の総括と考察、そして、本の持つ可能性について述べ、まとめとした。



本研究の構成